

令和4年度第3回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和5年3月23日（木） 19時00分から21時00分まで
2. 場 所 市民交流棟 2階会議室2
3. 出席者 (委員) 前田 眞、青木 ルリ、石川 弘幸、福濱 りか、山川 和子
横内 博之、立花 宏司、横内 薫
(事務局) 政策部長 大西 賢治
地域振興課長 西岡 孝文、
大西 陽介、井原 広一、菊池 花乃
ボランティア市民活動センター 所長 藤原 雅秀
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容

【協議会】

1. 開会
2. 議事
 - (1) アンケート調査結果について 【資料①②③④】
 - (2) 第3次ボランティア市民活動推進計画進捗状況について 【資料⑤⑥】
 - (3) その他
3. 閉会

6. 会議録

発言者	発言内容
	<p>【協議会】</p>
	<p>3. 議事</p>
	<p>(1) アンケート調査結果について</p>
会長	<p>市民アンケート調査の結果について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料①に基づき説明)</p>
会長	<p>事務局からの説明について質問はあるか。</p>
委員	<p>自由記述にて、2ページ目に「防災士の資格取得に興味があるが、自治会の推薦が必要と聞き、関係が薄く実現していない」という意見がある。おそらく、防災士資格のPRがまだ浸透できていない実例だと思う。現在、自治会長をされており自主防災会長でもある。手元に資料が届くが、役員だけの回覧になる。</p> <p>例えば、市報等を活用して呼びかけを行い申し込みについては自治会長や自主防災会長からお願いする形にしておく、資格取得に興味がある市民が資格取得へ進みやすいと思う。</p> <p>災害時のボランティア活動は非常に大事なもので、共助の要となる部分になる。ぜひとも情報発信について進めていただければと思う。</p>
会長	<p>災害時における防災士は多様な役割がある。役割についてどのように果たしていくのかきちんと伝えておく。資格取得が目的でなく、取得後の行動が非常に重要になる。</p>
委員	<p>先日、防災勉強会を開いた。防災マップにのっていない白地のところでも建物崩壊で危ないことも含めて避難所設営についての事例を紹介させてもらった。女性の多くが「防災士資格を取得してみよう」という声が多かった。勉強会などを積極的に開いて防災士を増やしていくことも検討してもいいと思った。</p>
会長	<p>団体アンケート調査の結果について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料②に基づき説明)</p>
会長	<p>事務局からの説明について質問はあるか。</p>
会長	<p>企業アンケート調査の結果について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料③に基づき説明)</p>
会長	<p>事務局からの説明について質問はあるか。</p>
委員	<p>今回、回答率が低い伊予三島ロータリークラブ・法皇青年会議所に声掛けをして</p>

数字が少し上がったので、事務局が率先してアンケートの呼びかけを行わないと回収数は伸びないと思った。

委員 前回調査の際に、回収数が 295 件となっていたが、今回調査方法が変更になって数が減少したのか大幅に減少した原因についてわかれば教えていただきたい。

事務局 今回、四国中央商工会議所登録企業 3,000 件へ会報誌に同封して送付した。前回のアンケート調査の際には 1 件 1 件個別でアンケート依頼を送付したため個別に送られたという意識が回答につながったのではないかと思う。依頼文書を工夫して実施したが目に届かなかった。

委員 実際に郵送物が届くので目にしたが、折込で入っているものは素通りしてしまう。次回アンケート時に郵送できる予算が確保できるのであれば、郵送で対応いただければと考える。

会長 複数回答の割合の出し方についてだが、母数はどれにしているのか。

事務局 母数については、複数回答の合計数が母数となっている。

会長 母数としては、該当する回答者の数を母数にしたらより正確な割合が出るため次回からは注意していただきたい。

会長 高校生アンケート調査の結果について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料④に基づき説明)

会長 事務局からの説明について質問はあるか。

委員 ボラ 7 について、活動を熱心に行っているが認知度につながっていないかが疑問に思う。

事務局 ボラ 7 の生徒へ同級生や学級へ活動広報を Instagram のほか声掛けを行うように言っているが、現在のボラ 7 は引っ込み思案でなかなか学級の中や同級生に活動をアピールすることが難しい。

委員 「問 3. あなたの性別を教えてください。」という質問について、なぜ今回質問にしたのか疑問に思う。今、LGBTQ がありこのあたりの質問について配慮が必要になる。

事務局 過去のアンケート調査でも入れていた項目で、選択肢の中に「答えたくない」を入れることにより配慮を考えた。アンケートの比較の際に男女でどのような違いがあるのかを調査したいと思った。

委員 男女の選択を入れることで、ストレス度の高いアンケートになっていると感じた。

委員 高校生に限らず全体を通しての意見となるが、「その他」項目の自由記載ができたほうが良いと思う。「その他」項目の回答が多い質問もあったため、回答した方がど

のような考えを持っていたかしたらなおよかったと思う。

委員

男女の質問について、「答えたくない」と回答した方が3%。今回男女の回答を基に分析するわけではないため質問を入れなくてもよいのではないかと思います。今回「答えたくない」と選択肢を入れることによって配慮は多少できている。クロス集計を行わないのであれば、今後なくしてもいい質問だと思います。今回のアンケートだけでなく、市で行う様々なアンケートで検討の必要があると思った。

委員

アンケート依頼書に裏は何も印刷されていないので、裏面にはどのようなボランティアがあるのか、ボランティアはどのようなものか表記していればもっとわかりやすく、ボランティアが何か回答者もきちんと理解したうえで回答が得られたと思った。調査依頼をしていく中で同時にボランティアとは何かを回答者にPRできればよかったと思う。

企業の回答について、企業の中の取り組みよりは社長や代表が率先してボランティアを行っている。例えば、「ボランティア休暇」を使用したり災害ボランティアを通して従業員全体のボランティア意識を高めていければいいと思う。

委員

高校生は災害ボランティアに興味のある生徒が多く、災害ボランティアを切り口としてボランティア活動を進めていければいいと思った。また、高校生の災害ボランティアについてフェーズごとにボランティアを決めていくことが経験を通して学びの機会を与える、人の役に立つ喜びが生まれると思った。顔の見える地域での関係づくりが重要になってくる。

高校生防災士に関しての呼びかけや啓発、実践につながっていくPDCAサイクルの取り組みが見えてくる。災害ボランティアについては、行政、NPO・ボランティア、企業、市民たちの四者連携の形になることがあり災害を取り上げることで一番わかりやすい形がとれる。

ボランティアの概念を変えることで企業もボランティアを始めやすくなり、学びや気づきの機会となると思った。

(2) 第3次ボランティア市民活動推進計画進捗状況について

会長

事務局より、第3次ボランティア市民活動推進計画進捗状況について説明をお願いする。

(資料⑤⑥に基づき説明)

事務局

進捗状況については、委員ごとに考えていただき意見があるようであれば事務局までご連絡いただきたい。

事務局

(3) その他

会長

議事は以上で終了したので、進行を事務局へ戻します。

事務局

令和4年度第3回ボランティア市民活動推進協議会を閉会する。